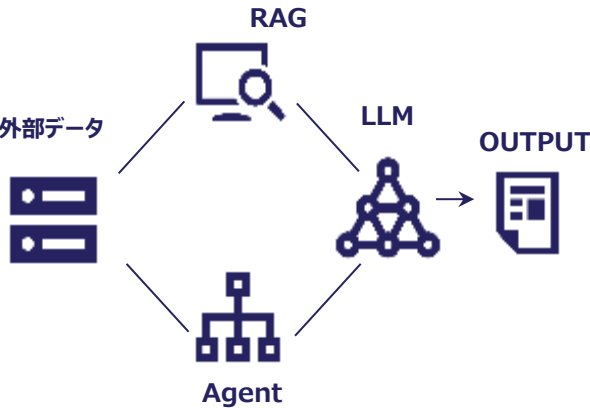


LLMの社会実装に向けた特化型モデルの元となる汎化的LLMに関する研究開発・事業成果概要

実施者 株式会社ABEJA

事業概要 汎化的な活用を見据えた日本語LLMを研究開発する。
①OSSの既存LLMに対しトップスコアを目指す。
②周辺技術の研究開発による精度向上を目指す。



汎用的な活用を見据えて、海外のLLMと同等の規模と精度のモデルを作成し、日本語での大幅な精度向上を目指す。
また、LLM の社会実装に向けて計算コストパフォーマンスを向上させるためにRAGの精度向上やタスクオートメーションを行うAgentの開発にも注力する。

社会実装イメージ

成果物の公開



LLM



ソースコード



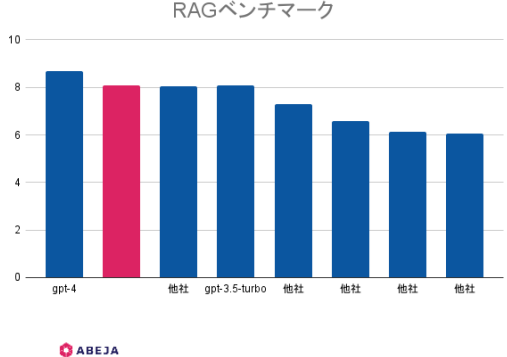
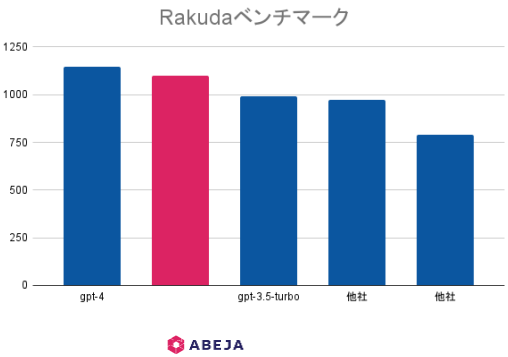
開発ノウハウ

現在提供しているABEJA Platformと合わせて開発したモデルを広く提供していく。
また、研究開発で得られた成果物を公開し社外コミュニティへの貢献する。

※本資料に掲載する製品名等は、各社の商標または登録商標です。

事業成果

Mixtral 8x7Bの日本語語彙拡張モデルの学習を実施し、そのモデルをもとにしてモデルをマージすることで100Bのモデルを作成。これらのモデルで当時の国内LLMでトップ性能のSwallow-70b-instruct-hfを超える精度を達成した。
また、RAGの精度を上げ、独自開発したRAG評価用のベンチマークテストでは、当時国内LLMでトップ性能であるSwallow-70b-instruct-hfを10%以上超える精度を達成した。
さらに、周辺技術の研究開発としてAgentについても日本語のFunction Callingを行えるモデルの開発を達成した。



学習データ、Megatron-LMを用いた学習コード、開発した基盤モデル、開発ノウハウを公開した。
・学習データ：AWSにて公開
・学習コード：GitHubにて公開
・基盤モデル：Huggingfaceにて公開
・開発ノウハウ：自社ブログにて公開